

日本学術会議・地球惑星科学委員会・地球惑星科学国際連携分科会
SCOSTEP-STPP 小委員会(第 26 期・第 1 回)議事要旨

開催日時: 2023 年 11 月 13 日 15:00-16:00

開催場所: 名古屋市千種区不老町 名古屋大学宇宙地球環境研究所
インターネット会議システム (zoom)

出席者: 上野悟、海老原祐輔、大塚雄一、加藤千尋、河谷芳雄、草野完也、坂尾太郎、板崎貴俊、塩川和夫、
関華奈子、高橋幸弘、田中良昌、中村卓司、中溝葵、能勢正仁、花岡庸一郎、増田智、松岡彩子、
三好由純、吉川顕正、渡辺真吾

欠席者: 浅村和史、石井守、加藤雄人、佐藤薫、三宅芙紗、村山泰啓、山本衛、横山竜宏、余田成男

オブザーバー: 阿部修司、家森俊彦、今城峻、門倉昭、北村健太郎、塩田大幸、津田卓雄、津田敏隆、
長妻努、廣岡俊彦、藤本晶子、渡部重十

配布資料

資料1. 第 26 期 SCOSTEP-STPP 小委員会名簿

資料2. SCOSTEP-STPP 小委員会(第 25 期・第 7 回)議事録

資料3. 日本学術会議地球惑星科学委員会組織図

資料4. SCOSTEP-STPP 小委員会設置提案書

資料5. SCOSTEP 及び PRESTO プログラム説明スライド

参考資料1. 委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン

参考資料2. メール審議の実施について

議事次第

(1) 委員の自己紹介

立ち上げ世話人の塩川委員からの提案で、資料 1 に基づき、第 26 期の委員の自己紹介が行われた。

(2) 委員長、副委員長、幹事の選出

まず、委員長の選出について議論し、塩川委員長の第 25 期からの継続が提案され、満場一致で委員長に選出された。また、塩川委員長から、副委員長として三好由純委員、幹事として増田委員の推薦があり、これらも満場一致で承認された。

その後、塩川委員長から資料 4 に基づき、本小委員会の役割について説明があった。また、引き続いて、中村委員から資料 3 に基づき、学術会議の組織に関する説明があった。

(3) SCOSTEP 関係活動に関する情報交換

塩川委員長から資料 5 に基づき、SCOSTEP 及び PRESTO プログラムの紹介が行われた。また、SCOSTEP のホームページを参照しつつ、SCOSTEP の執行体制の紹介が行われた。

関委員から、PRESTO の後継プログラムの決定の流れについて質問があった。塩川委員長から、近日中に各国・各コミュニティからの意見を集めるためのアナウンスがある予定で、国内では本小委員会を中心に意見収集・調整、SCOSTEP へのインプットを行っていくことになるとの回答があった。

また、関委員から、ロシアなど近年の国際情勢について SCOSTEP では問題が起きていないか、という質問があり、これに関しても、塩川委員長から、議論はオンライン会議を行うことで大きな問題にはなっていないこと、ロシアも通常通り SCOSTEP への拠出金を支払ったことなどの回答があった。関連して、吉川委員から九州大学での最近のロシアとの MOU、学術交流協定の更新状況に関する情報提供、塩川委員長からは、国際的な data exchange を奨励する IAGA、IUGG の resolution の紹介があった。

(4) STPP 関係活動に関する情報交換

中溝委員から下記の報告があった。

AOSWA: 2023 年 10 月に 5 年ぶりにオンサイトミーティングをマレーシアで開催(2018 年インドネシア、2020 年オンライン)した。2024 年ミーティングに向けた打合せがすでに始動している。

ICAO: 中国・ロシアによる CRC がグローバルセンターに加盟した。

WMO: ET-SWx (Expert Team on Space Weather) に、石井委員、中溝委員が参加、CGMS-chair として長妻氏も

参加している。2022年10月にキックオフ会議(ジュネーブ)、2023年3月に第2回会議(オンライン)が開催された。2023年11月15-16日に第3回会議(ジュネーブ)開催予定である。

WMO-ISES-COSPAR 連携: 背景として、UNCOPUOSとSTSCの要請により2022年7月1日付でUNOOSAから「COSPAR, ISES, WMOは、UNCOPUOSを含む他の関連する国際組織と協議・協力し、宇宙天気に関する活動の調整を改善するための取り組みを主導すること。」の要請があった。それに対して、2023年11月17日にジュネーブにて、関連組織からの代表が一同に会する会合が開催される予定である。

この後、ここまでの議題に対して、自由に質疑応答が行われた。

吉川委員から、学術会議の代表派遣に関して、SCOSTEP関係会議以外のSTPP関係会議への参加にも支援を受けられるかどうかという質問があり、中村委員から、採択については不明だが、真に重要な役割があると認められる会議なら申請する価値はある、との回答があった。

また、SCOSTEPで実施されている日本人の大学院生や若手研究者が申請できる支援プログラムはあるか、という能勢委員からの質問に対し、塩川委員長からSCOSTEPではPRESTO関連会議への開催支援、スクール開催支援、SVSプログラムによる若手派遣などの支援を行っており、SVSプログラムに日本人学生がドイツや米国の研究機関への派遣の申請を行うことは可能であるという回答があった。

(5) 議事要旨の提出に関する委員長一任について

塩川委員長が参考資料1に基づき、議事要旨の承認に関しての学術会議のガイドラインの説明が行われ、メールで議事要旨を確認した後、承認については議長に一任することに関する承認を得た。

(6) 小委員会委員間のメールアドレス共有について

塩川委員長から参考資料2に基づき、メールアドレスを明示した形でのメールのやり取りに関する説明があり、本小委員会の構成員でのメールアドレスの共有に関して、出席していた委員は全員、了承した。また、今回欠席していた委員に対しては、議事要旨回覧時に了解を確認することになった。

(7) その他

次回の本小委員会の開催について、塩川委員長から、SCOSTEPのPRESTOプログラムの後継について議論する必要があるので、2024年の1月か2月に開催したいという提案があり、承認された。

以上